

平成26年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	金沢大学
-------	------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※I型、II型、III型のいずれかに○を付してください。

<input type="checkbox"/>	I型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input checked="" type="checkbox"/>	II型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input type="checkbox"/>	III型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
国立大学法人 金沢大学	特別支援学校	知的障害者	かなざわだいがくにんげんしゃがいがくいきがくつうぎょういっくがくい 金沢大学人間社会学域学校教育学類 ふぞくとくべつしえんがくどう 附属特別支援学校

2 研究課題

キャリア発達支援の視点による、小中高12年間を見通した学習活動の充実改善

3 研究の概要

平成25年度の文部科学省「特別支援教育に関する実践研究充実事業」を受託し、キャリア発達支援の視点で小中高12年間を見通した学習活動の充実改善に取り組んだ成果を踏まえ、本研究では児童生徒の社会的・職業的自立をめざして、民間事業所や大学と協働した中学部・高等部の作業学習モデルプランを開発するとともに、就労移行支援事業所と連携し中学部・高等部における進路指導の充実改善を行う。また、昨年度の研究内容を継続し、児童生徒のキャリア発達を促す授業実践の充実改善を図る。

4 研究の成果

キャリア発達支援の視点で、中学部と高等部の学習内容の関係性や系統性について検討し、進路指導のあり方等の充実改善に取り組んだ。また、各学部において児童生徒のキャリア発達を促す教師の児童生徒への関わり方や授業の改善に取り組んだ。

①キャリア教育を柱とした「作業学習のモデルプラン」の開発

金沢大学附属図書館医学図書館ブックラウンジに、本校高等部生徒と教員が運営する「プラタナスカフェ」（注釈：カフェの名称）を開設した。週2日（週8時間）の運営を行い、1日に20～25名の来店があり接客を行った。また、障害のある社会人2名、ジョブコーチ1名と高等部生徒が協働して本校の環境整備作業に取り組んだ。これらの、より実践的な作業学習を通じて、生徒自身が将来の生活や就労をイメージしつつ、活動の工夫や向上に努める、コミュニケーション能力が向上する、身だしなみや振る舞い等の態度が改善するなどの成果が見られた。

②就労移行支援事業所と連携した、中学部・高等部における進路指導の充実改善

高等部1・2年生の一般就労希望者が就労移行支援事業所で現場実習を行い、生徒、教員、事業所支援員の三者による実習評価を基に、生徒と保護者への進路指導を行った。この取り組みは、生徒や教員が一般就労に向けて必要な事柄を認識し、生徒が学習活動への意欲を高めると共に、保護者と卒業後の就労に向けた課題を共通理解する上で有効であった。

### ③児童生徒のキャリア発達を促す授業実践の充実改善

過去の学校研究で得た知見から、児童生徒のキャリア発達を促すには、行動の変容だけでなく内面の変化に着目し、自分自身や社会の事象に関する知識や認識を更新していくための教師の支援が必要であると共通理解し、教師の関わり方や授業のあり方を検討した。

## 5 課題と今後の方策

### ①キャリア教育を柱とした「作業学習のモデルプラン」の開発

- ・金沢大学附属図書館医学図書館ブックラウンジに開設した「プラタナスカフェ」（注釈：カフェの名称）では、作業活動量の確保や活動内容の工夫が課題となった。今後は、生徒のキャリア発達を促すために、接客後即時の振り返りを行う場を設定したり、ICT機器を活用した新しい活動を取り入れたりしたい。また、新製品の開発や広報に努め、来店者数、活動量を拡大させたい。さらに、カフェを経営する方を講師として招聘し、質的向上も図る。
- ・障害のある社会人との協働作業では、社会人と作業を協働することで期待した、生徒が将来の就労イメージを持ちながら、自らが気づき主体的に作業に取り組むという成果を十分に挙げるができなかった。今後は、社会人と生徒が行うミーティングの内容と方法を再検討したり、より成果を挙げられるよう作業計画の見直し、ジョブコーチとの事前打ち合わせの充実を図る。

### ②就労移行支援事業所と連携した中学部・高等部における進路指導の充実改善

- ・就労アセスメント実習の結果を基に生徒と保護者に進路懇談を実施した結果、アセスメントの観点の再検討と実習内容を充実させる必要があった。現場実習計画の再検討や、実習・評価・保護者との進路懇談の一連の取り組みをまとめるシート等の開発、就労アセスメント実習や現場実習の成果を学習活動に生かすための個別の指導計画との関連付けについても検討する必要がある。

### ③児童生徒のキャリア発達を促す授業実践の充実改善

- ・児童生徒のキャリア発達を促す上で検討した、大切にすべき教師のあり方や児童生徒との関わりの視点を基に、授業を構成、実施する方策についての研究は十分ではなかったため、授業研究を充実させる。
- ・教育課程の系統性や関連性の見直しについては、中学部・高等部の進路指導や作業学習について取り組んだが十分ではない。未実施の小学部と中学部間の系統性や関連性を見直し、共通理解を図りながら教育課程の充実改善に取り組む。